

⑩ 日本国特許庁 (JP)
⑫ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開

昭58—113672

⑤ Int. Cl.³
F 16 K 15/06

識別記号

庁内整理番号
6943—3H

④ 公開 昭和58年(1983)7月6日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ バルブ

平塚市代官町16-21

⑯ 特 願 昭56—209724

⑰ 出 願 人 星野謙三

⑱ 出 願 昭56(1981)12月28日

平塚市代官町16-21

⑲ 発 明 者 星野謙三

⑰ 出 願 人 星野栄治

平塚市宝町3-10

明 細 書

1. 発明の名称

バルブ

2. 特許請求の範囲

- 1) 円 面状の弁座を有し、円錐の軸方向に変位し、この弁座によって高压側と低压側に流体を仕切り、低压側の弁ホルダーの内面に接して滑動する弁案内を有し、高压側にバネを装設して流体を締め切ることを特徴とした逆止弁。
- 2) 円錐面状の弁座を有し、円錐の軸方向に変位を行なう弁において、弁の高压側に弁の外筒に固定しかつ案内筒10を装設した案内9の案内筒に滑動する円筒11を保持した弁3を有し、かつ案内9と弁3との間をバネ6で加圧したことを特徴とした逆止弁。

3. 発明の詳細な説明

本発明は高压と低压との差が非常に大きい逆止弁を事故なく作動させるためのもので、高压ポンプの場合、逆止弁からの漏洩が多かったり、又は逆止弁から水が入らなかつたりすることが時々おこる。それは高压の場合逆止

してある。これを図で説明すると、第1図は弁3は弁ホルダー2の弁座1の円錐面で互に密接して流体を締め切る様になっているが、弁のガイド5と弁ホルダーのガイド4とは低压側において滑接動しているので高压側の圧力による弁ホルダーの変形がおこらないので常に正常な相対運動が出来る。又、流体が流入する場合は通路1213を通り弁を上押し上げ1の弁座のところから14の通路に流れるが、圧力が高压側にかかるか、又は流体が一杯になって流入がなくなるとバネ6により弁3は弁座に押しつけられて密着し、4、5の案内装置により接合するバネ6は弁の円筒7とバネガイド8により保持される。又第2図は高压側に案内筒10、弁の案内筒11が滑動するが、案内9は弁ホルダーと独立しているため圧力により変形がないので弁の作動は正常に行なわれ、流体は12の通路より1の弁座を過って15の通路へと導かれる。

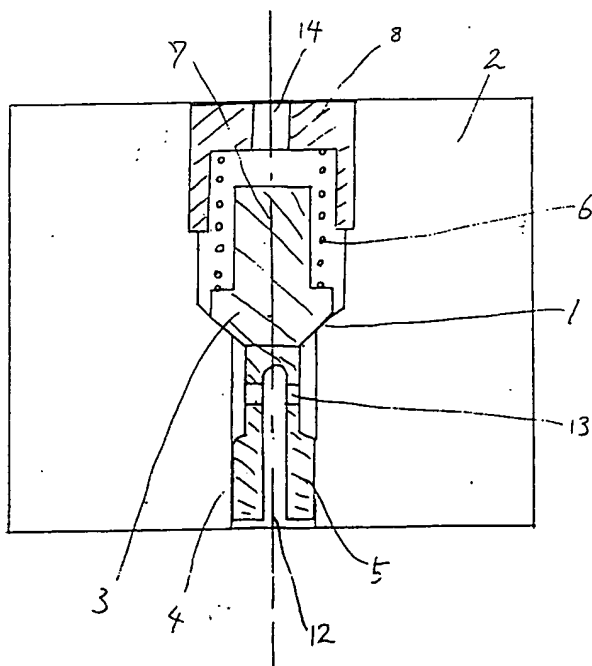
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の一例の正面図

第2図はこの発明の一例の正面図

4. 案内 (ホルダー側) 5. 案内 (弁側)
 6. パネ 7. 弁筒 8. パネ押え 9. 案内
 10. 案内円筒 (案内側) 11. 案内円筒 (弁側)
 12. 入口通路 13. 通路 14. 15. 通路

第 1 図



第 2 図

